

## 旧盆需要に向けて各産地が順調に出荷予定！キク商戦へ突入

一年の中で切り花の一大需要期である8月の旧盆（13日～16日）は、各産地から需要期に合わせた切り花の出荷、そして市場での取引、量販及び小売店等での売り込みが盛り上がりを見せます。特に仏花として多く利用されるキクの動向は重要で、各産地ともこの時期を目標に管理や開花調節などを行い、本県においてもスプレーギクやコギクを中心に出荷の最盛期を迎えます。

今年も8月に入りいよいよ旧盆需要に向けた動きが本格化し、市場への注文（予約相対販売）にも動きが出てきています。市場での販売及び入荷量のピークは8月7日（月）と見込まれており、各産地ともおおむね順調な出荷を予定しています。

### 各産地が順調に出荷を予定！旧盆需要は地方の動きに期待

7月の東京盆(新盆)では白ギクを中心にキクの価格が低迷し、切花全体においても厳しい販売となりました。これは供給量に対して東京等での需要が減少していることが原因とみられていますが、この相場低迷はその後の買参人の仕入れ動向にも影響し、現在のところ旧盆需要に向けた注文は必要最低限に留まり、市場の受注状況は鈍くなっています。今後も入荷動向等の動きを探りながらの注文となると見込まれ、市場では各産地の情報収集が行われています。

現在、需要期を前にしてキクは品薄による単価高の傾向が見られていますが、東京盆とは異なる地方の動きが見込まれる旧盆では活発な取引が期待されます。

市場担当者によると、**今年の旧盆需要に向けた販売は8月4日(金)～9日(水)が最盛期となり、ピークは7日(月)と予想されています。**そして主産地においても、多少の前後はあるものの、出荷ピークは7日(月)と見込まれています。

本県産のスプレーギク、コギクは、一部露地栽培においては6～7月（生育期）の少雨や朝晩の低温により草丈の伸びが懸念されましたが、おおむね順調に生育しほぼ計画どおりの出荷を見込んでいます。

他県の各産地でも生育はおおむね順調で需要期に合わせた出荷となり出荷量のピークも7日(月)と予想されています。愛知、静岡など西南暖地やコギクの主産地である茨城では生育順調で、やや前進傾向となっていますが適期に出荷ピークとなり、東北では一部で生育遅れが見られますが、現状大きな問題はなく順調に出荷される見込みです。

### 今年も需要期を前に都内主要市場で本県産を展示PR

#### 都内主要市場における本県産スプレーギク及びコギクの展示PR

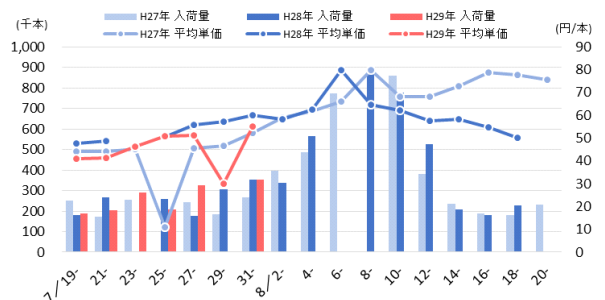
- 日時／7月31日(月)～8月4日(金)
- 場所／都中央3市場（大田、世田谷、北足立の卸4社）
- 主催／群馬県スプレーマム共同販売推進協議会
- 展示産地／JAあがつま、JA利根沼田、JA赤城たちばな

群馬県スプレーマム共同販売推進協議会では、旧盆及び秋彼岸の需要期を迎えるにあたり、毎年都内主要市場にて県産スプレーギクを展示し、買参人など市場関係者に向けPRを行っています。

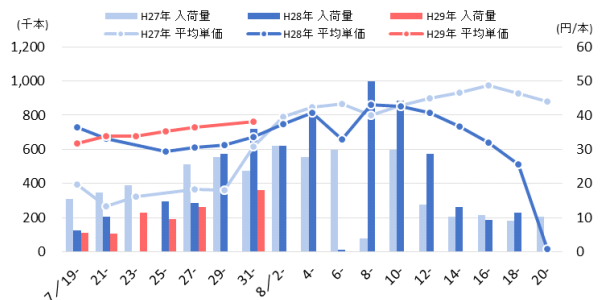
今年も大田、世田谷、北足立の各市場（卸4社）のセリ場前スペースにて展示を行い、本県産の品質の高さや品種ラインナップを紹介し知名度向上、販路拡大を図っています。

併せて、県育成品種のコギク「小夏の風」、「小夏の月」、「小夏の星」（JA赤城たちばな産）も展示し、そのPRも行っています。

大田市場におけるスプレーギクの入荷量及び平均単価（日別）



大田市場におけるコギクの入荷量及び平均単価（日別）



大田市場での展示



世田谷市場での展示